

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	教育学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 実践的な志向を持つ学生に対応した授業形態を検討する。	→「教育学研究科の教育課程および授業形態を継続的に検討する委員会の有無と検討の進捗状況」 「履修者数規模別の授業科目数」 「少人数授業の授業形態の調査」 「規模別講義室・演習室の使用状況」 「マルチメディア教室の稼働率」	B	B	B	A	A
2. シラバスと授業内容との整合性について、継続的に検証する。	→「学生による授業評価の実施率」 「学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率」	A	A	A	A	A
3. 教育学研究科における成績評価のあり方について、問題点の抽出と改善の方策を継続的に検討する。	→「教育学研究科の教育課程を継続的に検討する委員会の有無と開催頻度」 「各授業科目の成績分布」	C	C	C	C	C
4. 修士論文・博士論文の指導体制について、実施結果の検証を行う。	→「学生へのアンケート調査」	C	C	C	C	C

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「学生への授業アンケート」調査の結果をもとに授業形態、環境整備について検討した。また、研究科委員会において、カリキュラムポリシーについて検討した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か すべての授業が少人数であり、適切な授業形態および講義室の使用を行っている。講義室、マルチメディア室を含む大学院棟の環境を整備し、大学院生がさらに有効に利用できるようにした。また研究科再編に向けたカリキュラムポリシーの内容を検討し、必要な修正を行った。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 課程修了後に学校現場に戻っていく大学院生(社会人)にたいして、必要な実践力は何かを分析し、それを付けさせる方策を検討する。	☆
		その他	☆
			☆
目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「学生による授業アンケート」調査の結果をもとにシラバスと授業内容について授業担当者が検討した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か シラバスは大学院生がウェブ上で閲覧できるようにしている。「学生による授業アンケート」を実施し(実施率100%)、授業担当者が個別にシラバスと授業内容の整合性および、授業内容の適切性について自己評価を行っている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か シラバスを担当者自身だけでなく、FD委員会やその他の委員会において検証を行い、修正すべき点については、改めていく。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科委員会において、学位論文審査基準について検討し、決定したが、研究科全体における成績評価の適切性について検討し、検証するところまでには至っていない。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 修士論文および博士論文の学位論文審査基準を明確に示した。しかし研究科全体における成績評価の適切性について検討し、検証するところまでには至っていない。博士論文については、領域を超え、研究科全体で評価する体制があり、それに従って評価は適切に行われている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 研究科委員会等において、GPAの導入を含めた成績評価のあり方について検討する。	☆
		その他	☆
			☆

目標4	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究演習(ゼミ)指導の体制および方法について、研究科のFD研究会を実施し、検討した。「学生への授業アンケート」調査の結果をもとに、科目担当者が個別に修士論文・博士論文の指導内容の自己評価および方法の改善を図っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	
		2010年度および2011年度に、大学院における研究演習(ゼミ)指導の現状と課題、今後の指導体制・方法について、研究科のFD研究会を実施し、検討した。「学生への授業アンケート」調査結果をもとに、科目担当者が個別に修士論文・博士論文の指導内容の自己評価および方法の改善を図っている。指導教員の数を増やし、より専門性を活かした指導ができる体制づくりをした。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	
		研究科委員会等において、修士論文・博士論文の指導体制について検討する。	☆
		その他	
			☆
備考			☆